

消化器の癌の予防について

城山病院 副院長 消化器センター 副センター長
消化器内科部長 東野 健医師

日本人の2人に1人は癌で亡くなり、その大部分は消化器の癌です。「癌のリスクは誰にもありますが、癌になる前の症状を叩き、予防に力を入れる。私たちの仕事は非常に健康にとって重要ですよ」と言う東野医師に聞きました。



日本消化器病学会指導医
日本消化器内視鏡学会指導医
日本内科学会認定医
日本消化器内視鏡学会近畿支部
会評議員
日本超音波医学会超音波専門医

消化器内科にCCIN

消化器センターに内科医と外科医が揃って実質的稼働ができるようになり、3年目に突入しました。今年度の胃カメラ実施数は約4,000件、大腸カメラは約1,500件に及んでいます。また、消化管内視鏡の分野で開発され、波長の短い光を表面で反射させ、粘膜表層の毛細血管や微細構造をきれいに映し、組織を採取せずに悪性を診断できる狭帯域ファイバー内視鏡(NBI)を使った治療も約200件を上っています。

胃・大腸・膵臓の癌

胃癌はピロリ菌が尿素分解を起こす時に発生する活性酸素により、胃の遺伝子と癌を抑制する細胞を錆びさせてしまうことで発症します。2年前にピロリ菌除去の治療が保険適用になりました(胃カメラ検査を行った場合に限りです)。ちなみに酸化を防ぐ栄養素はポリフェノールやリコピン、そしてビタミンCです。

さらには、内視鏡的粘膜炎下層剥離術(ESD)も軌道にのり、初期の胃や大腸の腫瘍はこれを使って治療することができます。また、内視鏡を使って狭窄した消化管にステントを入れて拡張させる治療も多く行っています。十二指腸にある乳頭から胆管に造影チューブを入れて胆管や膵臓、肝臓の診察、治療を行う肝胆膵内視鏡検査(ERCP)も積極的に行っていきます。これは膵炎などの合併症を起こしやすい検査です。当院では細心の注意を払い治療に取り組んでいます。

食道炎と食道癌

また、大腸もビタミンや繊維を多く含む野菜を多く食べると腸管が太くなり、逆に肉類をたくさん食べると腸管が狭くなり、癌が発症しやすくなります。生まれたばかりの赤ちゃんの腸内の菌は8割が善玉菌で、歳をとるごとに悪玉菌と宿便が溜まりやすくなります。ある学説によると、オリゴ糖と善玉菌、そ

れに繊維質がなければ腸は再生しないとされています。私もそうですがみなさまも食生活には気を付けていただきたいと思います。

最後に膵臓癌の話。この病気は5,000人に1人の割合で発症しますが、慢性膵炎になると癌になる確率が600人に1人と増加します。慢性膵炎の男性の7割以上はアルコール摂取によるものです。早期に慢性膵炎を治療することが重要になります。さて、食道、胃、大腸、膵臓の癌の治療に対する重要性をお話しましたが、これらの臓器に比べて小腸は内視鏡検査が難しく、診断治療が消化管の中でも後れをとっていました。しかし、この4月から小腸カプセル内視鏡専門医の太田医師が赴任し、積極的に治療を進めています。今月の市民公開講座で太田医師に話をぜひお越しください。

第6回市民公開講座
カプセル内視鏡
～小腸の病気を探す～
講師 消化器センター消化器内科 太田和寛先生
12月25日(木)14時～15時
城山病院 1階エントランスホール
参加無料

次に各臓器の癌に